

2023年度後期 授業に関する学部・学科・センター自己点検・評価

2023年度後期に授業アンケートにお答えいただきありがとうございました。

授業アンケート結果を参考にして、それぞれの先生が自己点検・評価をされました。学科長がそれらをまとめ、さらに学部長が総括をした自己点検・評価をここに掲載いたします。

良かったことはさらに継続し、改善すべきことは今後の授業にむけて学生のみなさんにフィードバックをしていきます。

今後とも授業改善のために、「学生による授業評価アンケート」や「授業について教育改善委員の意見を聞く会」にご協力ください。

2024年10月

目 次

文学部	1
人間科学部	3
教育学部	4

2023 年度後期 教育改善に向けて大学に支援を求める事項について

所属 文学部

氏名 池谷 知子

(1) 大学全体に対する教育改善に関する支援について記入してください

【支援 1 プロジェクタについて】

PPT を始めとして、PC をプロジェクタに繋いで授業で使用する教員が多いので、できるだけ各教室にプロジェクタを整備して、プロジェクタ付きの教室を希望する教員にはすべて当たるように支援してほしいという意見があった。

【支援 2 成績中央値について】

成績の公平性を保つために、現在、大学として成績中央値が 75 点となっているが、それはあくまで「目安」として、絶対的な拘束力をもたせないようにしてほしいという意見があった。

(2) 大学に支援を求める理由を記入してください

【支援 1 プロジェクタについて】

ICT の教育への導入が進んでおり、松蔭 manaba は多くの授業で活用されている。それ以外にも Zoom、YouTube、vimeo など動画配信する、Sli.do、Comment Screen、google スプレッドシートなどでコメントを共有するなど、それぞれの教員が工夫を凝らしていることがわかる。しかし、それらを実際に授業内で効果的に使うためには、高性能なプロジェクタが必須である。そのためプロジェクタの整備をすすめることを望む。

【支援 2 成績中央値について】

成績中央値が 75 点を厳密に運用すると、全員が優秀で真面目な学生で、受講状況も積極的であった場合でも、全員に 89 点を付けることが難しい。反対に単位を取得するためだけに履修していて、課題の提出や試験の成績が悪い場合も、全員に 60 点をつけることが難しい。同名科目の複数クラスに関しては、公平なクラス運営が必要であると認識しているが、科目の特性上やむをえない場合を除き、75 点はあくまで「目安」として、絶対的な強制力をもたせることなく、もう少しゆるやかに運用することを望む。

(3) 教育効果について記入してください

【支援 1 プロジェクタについて】

アクティブラーニングなどでグループごとに解答を書き込んだり、ブレインストーミングを行う時、個人ベースで書き込める Sli.do、Comment Screen、google スプレッドシートは双方向的な

授業では非常に有効である。グループでやることと、個別にやることを併用することで授業にメリハリが生まれ、高い教育効果が得られることが期待される。

【支援2 成績中央値について】

全員が素晴らしい学生であっても、すべて成績中央値が75点にしてしまうことで逆に、学生に不公平が生まれている。学生を適切に評価することで、学生の意欲が上がるという教育効果が期待される。

提出日：2024年7月17日

2023 年度後期 教育改善に向けて大学に支援を求める事項について

所属 人間科学部

氏名 坂本 真佐哉

(1) 大学全体に対する教育改善に関する支援について記入してください

人間科学部では、全学科ともに教員らの様々な工夫により、ICT 教育む含め、教育に関する自己点検・自己評価による改善が機能しており、授業アンケートなどの評価などからも学生の満足度が高いことが伺われた。就職活動が遠隔で行われる機会が増えていることから、Zoom などによる遠隔授業の有用性を指摘するコメントもあり、現在行なっている遠隔授業のスキルを維持向上させる試みを継続することが必要だと考えられる。その他、日進月歩である ICT を用いた教育スキルに関しての FD 研修を定期的に開催してスキルアップを図ることが必要であろう。

このように ICT を駆使する教育の効果が認められていることと同時に、授業評価の回答率が低いことや動機づけの低い学生がポータルや松蔭 manaba からの呼びかけに反応せず、指導上の困難があることなども示されている。教員個人の努力に限界を感じるとの声もあり、システム上の改善策、解決策について模索する必要性がある。

また、BYOD が全学年でスタートするが、PC の機種ごとに対応が異なり、授業の進行に影響する場合もあることなども指摘されている。

ディスカッションやグループワークを取り入れて、アクティブラーニングの実施を試みているが、学生たちの積極的な発言が乏しい場合もあり、授業運営のヒントが得られるような FD 研修について検討してもよいのかもしれない。

また、科目ごとの自己点検・評価票には、必修かどうかの区別や回答者数の欄がないので、可能であれば改善していただきたい。

(2) 大学に支援を求める理由を記入してください

理由は上記に示した通りである。

(3) 教育効果について記入してください

ICT 機器活用やアクティブ・ラーニング、PBL 型授業などにより教育効果が得られていることが授業アンケートや学科ごとの自己点検によって示されている。また、それらが授業アンケートなどに基づく自己点検・評価によって改善されていることも確認できた。

提出日：2024 年 7 月 16 日

2023 年度後期 教育改善に向けて大学に支援を求める事項について

所属 教育学部

氏名 松岡 靖

(1) 大学全体に対する教育改善に関する支援について記入してください

教育学部から大学全体に求めたい支援は細かくみると多岐にわたるが、今回は①実習参加による授業欠席への対応、②配慮を要する学生への対応の充実、という二点に絞って述べたい。

①実習参加による授業欠席への対応について

本学部生の多くが 2～4 年次に教育実習などの学外実習で授業を欠席せざるをえない。その場合に学生の不利益にならないように、出席管理や課題出題などについて全学的な指針を示すことで、大学全体の教育改善を図りたい。

②配慮を要する学生への対応の充実について

自己点検・評価票にあるように、授業でのグループワークなどを苦手とする学生もいる。すでに新入生オリエンテーションなどからこうした学生への配慮は始まっている。教職員が連携して指導を充実させることで教育改善を図りたい。

(2) 大学に支援を求める理由を記入してください

①本学部の保育士養成課程では厚生労働省から授業時間の確保を義務づけられている。とはいえ実習で学生が欠席した場合、学生の欠席分に応じた補講を個別に実施することは、学年歴や勤務体制などの事情で現実的に難しい。そのため、担当者が専任教員か非常勤講師かを問わず、教育学科の専門教育科目でない科目でも、出席管理や課題出題などで学生の不利にならない指針を、大学全体から各担当者に明示することが望ましい。

②教員に関して挙げると、1 年次の科目担当者を始めとする専任教員を対象に、学生同士のコミュニケーションを促進できる授業の手法を共有していくことが考えられる。また教育学部に引き付けると、保育実習や教育実習に向けての指導の充実が求められる。クラス担任教員、実習指導担当教員、巡回指導担当教員、そして関係部署の職員も連携して、より組織的に個別の学生に対応できる仕組みを整えていくことが望ましい。

(3) 教育効果について記入してください

①授業評価アンケート結果でも松蔭 manaba は授業で頻繁に活用されていて、学生の満足度も高いと察せられる。このシステムを使って学生が課題を提出することで、学修時間を確保できる対応策をマニュアル化できれば、大学全体の教育改善につながるだろう。

②すでに述べた教員だけでなく、学生指導に関わる職員（教職支援室、学生支援室、保健室など）とも連携することで、教育効果や学生満足度の向上が期待できる。またこうした教育改善は学生の実習先や就職先から本学の教育が評価されるさいも有効だろう。

提出日：2024 年 7 月 10 日